

EXPLORE

ワクワクってなんだろう？

学校法人岩田学園
いづみ幼稚園 みたま幼稚園
2021年度保育研究

自分と世界のウェルビーイングのために
学び続ける教師たちの記録

ワクワクってなんだろう？

1. 主題設定の理由

本園では、「ワクワク」「たくさん遊ぶ」という意味の「プレイフル」を教育コンセプトの中心に据えている。本園が進めるポジティブ教育（ウェルビーイング教育）の主要な柱でもある。また、経済産業省が2019年に発表した「未来の教室とEdTech研究会-第2次提言」では、「一人ひとりのワクワク」という心的概念が教育現場における創造性の中核的概念とされ、教育領域におけるワクワク感への注目の重要性が主張されている。

コロナ禍において、本園の教職員がよりフォーカスしたのは、幼稚園生活で最も重要なこと、すなわち「子どもたちがワクワクして遊ぶ」ということだ。「Can（できるかどうか）ではなくHow（どうしたらできるか）で考え、自分の周りの環境を最大限に活かして*」ワクワクを創り出す力が、この時代に必要だと考えた。*（引用「プレイフル・シンキング」上田信行）

他方、ワクワクの概念は曖昧だ。「ワクワク」は日頃からよく使う言葉であり、「ワクワク」が子どもの成長にとって良好であることは実感としてありながら、表面的にわかっているつもりになっていることはないだろうか。

- ・ワクワクする保育では何が起きているのか？
- ・ワクワクする感情は子どもの育ちにどのように影響するのか？
- ・そもそも「ワクワク」ってなんだろう？

不確実性と挑戦の年、私たちは、子どもも大人も元気にする感性として「ワクワク」に注目した。

目 次

1	主題設定の理由
2	ポジティブ感情（バーバラ・フレドリクソン）
3	ワクワクする保育を創造する
4	いづみ幼稚園 事例研究「おばけ大好き！」「水を使って広がるあそび」
5	みたま幼稚園 事例研究「影っておもしろいな～」
6	2021年度研修記録
7	2021年度の保育の振り返り（自己評価）
8	プレイフル
9	まとめ

2. ポジティブ感情

ワクワクの一般的な定義は、「期待・喜びなどで心がはずみ、興奮気味で落ち着かないさま」（広辞苑）とあるが、具体的にどのような感情で、なぜ成長に効果があるのか。バーバラ・フレドリクソン博士（ノースカロライナ大学）はポジティブ感情を解明し、ポジティブ感情を持つことが創造力を高めるのに有効であることを科学的に証明した。

（1）ポジティブ感情には10種類ある

愛：相手への興味から始まり、さまざまな喜びをもたらす（以下の全ての要素を内包している）

喜び：思わず笑顔になるような、全てがうまくいっているときの感情

感謝：与えられた何かについて、その価値を認めたときに湧く感情

安らぎ：今の心地よさをゆっくり味わっている感情

興味：新しい物事に関心を抱き、心を突き動かされる感情

希望：絶望的状况の中で、可能性を信じる感情

誇り：自分の努力と能力を投じて、何かがうまくできたときの感情

愉快：安全な状況の中にいて、心から面白いと思ったときに湧いてくる感情

鼓舞：奮い立つような感情が湧いて、心が熱くなっている感情

畏敬：鼓舞よりも、スケールの大きい素晴らしさにであったときに感じる感情

（2）ポジティブ感情の役割

- ・よい気分になれる
- ・人間関係や睡眠にもよい影響を与える
- ・思考の領域を広げてくれる
- ・沈んだ気持ちを前向きに変えてくれる
- ・困難な状況から立ち直りやすくなる
- ・物事をやり遂げる力が高くなる

（3）拡張-形成理論（2001）

ポジティブ感情が自己効力感を高め、自己をスパイラルに拡張・形成する。そして人はこの拡張と形成を繰り返すことで成長する。

ポジティブ感情は以下の4つの能力を拡大してくれる。

- ①知的能力 集中力が増し、これからのことが楽しみになる。
- ②心理的能力 自分自身を受け入れ、人生に意義を見出す。
- ③社会的能力 信頼に満ちた親密な人間関係を築き、相手からの支えを感じる。
- ④身体的能力 より健康になる。

出典：バーバラ・フレドリクソン「ポジティブな人だけがうまくいく3：1の法則」（2010年 日本実業出版社）

マーティン・セリグマン博士によるとウェルビーイングの要素は6つある（PERMA-V）。

ポジティブ感情はウェルビーイングの重要な要素である。

3. ワクワクする保育を創造する

夏の園内研修 2021年8月18日～20日

両園の教師が参加し、夏休み中の2日半にわたって園内でワークショップ形式の研修（講義・ブレインストーミング）を行い、ワクワクについて考えた。教師自身がワクワクすることが重要と考え、教師のワクワクするチームづくりを通して、ワクワクとは何か自分ごととして捉える機会とした。それを踏まえてワクワクする保育についてチームで考えることができた。創造的なアイデアが多く出てきて、実際の保育につながる充実した園内研修となった。

1. ワクワクするチームをつくろう！（チームビルディング）

メンバーの強みを見つける、普通ってなんだろう？、自己認識（価値基準ワーク）

	正解のあるこれまでの時代	正解のないこれからの時代
優秀なチーム	早く、ミスがないチーム	模索・挑戦し、失敗や実践から学べる
必要な人材	言われたことがきちんとこなせる	変化を感じ、工夫や創造することができる
コミュニケーション	トップダウン	さまざまな視点からの率直な対話

2. ワクワクを自分ごととして考える（記述およびブレインストーミング）

- ・あなたが子どもの時にワクワクしたコトやモノはなんですか？

旅行、イベント（クリスマスなど）、好きなこと、自然（水、雪など）、チャレンジ

- ・なぜワクワクしたのだと思いますか？

非日常だから、大きな期待感があるから、ドキドキを味わえるから、楽しいから、好きなことだから、新しい発見や経験があるから、特別感があるから、未知だから

- ・ブレインストーミング「ワクワクって何？」

- ・「やってみよう」という気持ちがわいてくる
- ・ゆううつにならない
- ・何をしても怒られない
- ・楽しいことをするとき
- ・これから始まる期待感
- ・久しぶりの友達と会う前
- ・新しいことに挑戦するとき
- ・スタバの新作
- ・ドキドキ（安心安全が確保されていない場合）
- ・自分の興味があることをしているとき
- ・友達と何かする
- ・挑戦してみようと心がはずむこと
- ・完成形が見えないこと
- ・相手のことを思う（プレゼント）
- ・好きなこと/好きなもの

3. 「ワクワクする保育をしよう！」

次のテーマでチームごとにブレインストーミングをした。

1. 雨の日 2. 暑い日 3. 午後の時間 4. ダイナミックなアート 5. 科学する心 6. 運動会

4. いづみ幼稚園 事例研究 【① おばけ大好き！】

4月の新聞紙遊びでは、的をおばけにしたところ、「もっとあそびたい」「またおばけさんくるかな」と楽しみにするようになった。興味を持ったため、教師の服をおばけに見立てて追いかけてくすると、それが大好きになった。はじき絵でおばけ探しも楽しんだ。その後、おばけの曲に合わせて踊ることがブームになる。学園祭では「おばけ」をテーマにダンスやポーズで表現した。おばけに興味を持った子どもたちのワクワクが1年を通して広がっていった。

今日もおばけ来るかな？
(一緒に遊びたい気持ち)

どんなおばけに変身して
ダンスしようかな？

先生の服がおばけに見える！
(おばけのおにごっこ)

おばけみつけた！（はじき絵）

おばけの的あて（出会い）

学園祭でもおばけになりたい！



おばけ屋敷を作ろう！

○ワクワクって何だろう？（教師のイメージ）

- | | | | |
|-------------|-------------|-------------|---------|
| ・新しいこと | ・自分からやってみたい | ・どうなるかわからない | ・期待感 |
| ・体が前のめりになる | ・抑えきれない気持ち | ・答えがわからないもの | ・やってみたい |
| ・じっとしていられない | ・帰りたくない | ・もっとやりたい | ・先が見えない |
| ・変化していく | ・みんなでやると楽しい | ・正解がないけど楽しみ | ・好きなこと |

○ワクワクって何だろう？を踏まえて・・・おばけの事例で、どうして興味をもったのか？

(おばけは怖いイメージでは？しかし、この事例ではおばけを怖がる子がひとりもおらず、みんなおばけが大好き→それはなぜか)

- ・おばけとの出会いが、かわいい的のおばけだったため、プラスのイメージを持った。
- ・あそびの中で、「おばけがあそびにきたよ」「一緒にあそぼう」など前向きな言葉を掛けたり、おばけの声真似をして会話を楽しんだりした。
- ・先生とあそぶことが好きで、おばけのあそびがあれば、一緒にあそべる！というきっかけになった。
- ・全員が楽しんでいたので、みんなが楽しそうだから自分も楽しい！という気持ちになった。
- ・子どもたちにおばけのイメージがない状態で、おばけは楽しい！という雰囲気づくりをしたので、怖がらず楽しんであそべるようになった。
- ・追いかけて、的あて、はじき絵など、テーマが同じであそびが色々あったので楽しかったのでは。
- ・おばけは目に見えないものでイメージがいろいろできることから、最初に前向きな導入をしたことで、楽しいものというイメージがついた。
- ・ハロウィンのおばけは怖がった→“1組さんのおばけ”が好き、先生がやってくれるおばけが好きなど特定のおばけが好きで楽しんでいる。

【② 水を使って広がるあそび】

砂場や園庭で、子どもたちが水を遊びに取り入れて、様々な試行を楽しみながら、意欲的に遊んだ。

- ・ どうしたら水が流れるかな？
- ・ 砂場で水を流すとコーヒーの泡ができるよ
- ・ 草や花で色水が作れるよ
- ・ ホースを砂に入れると、どんどん中に入っていくよ
- ・ 外が寒いから氷になったよ



○どうして「水」に対しての興味が継続したのか。

- ・ 子どもたちのやり方次第であそび方が無限に広がる。発見することも違う。
- ・ 普段は水を出しすぎることはダメ・・・でも水あそびの時は好きなだけ水を出してもいい、濡れたり汚れたりしてもいい！という環境。
- ・ 非日常の経験、幼稚園じゃないとできないこと。
- ・ 身近けどなかなか興味をもって深く取り組むことがない経験だから楽しい。
- ・ うまくいなくても、じゃあどうしよう？というところが楽しい。
- ・ 結果がひとつじゃないから楽しい。難しいけどやってみたいという気持ちになる。
- ・ 年長さんがやっていることを見て学ぶ、教えてもらうことでさらにあそびが広がる。
- ・ 自分たちで試行錯誤することで、予想外の結果になる。
- ・ 身近で子どもが使いやすいところにあるから、自分から興味をもってあそべる。(大人が提供するあそびではない)

○ワクワクした気持ちが生まれたのにはどんな要因があったのか？

- ・ 自由にやっていいという環境。楽しそう！と感じる雰囲気づくり。
- ・ 自分が楽しいだけでなく、お友だちも楽しそう、一緒にあそべるのが嬉しい。
- ・ 終わりが決まっておらず、自分の自由な時間にやろうと決めてできること。
- ・ あそびを制限されない。周りの目を気にしないで思い切り楽しめる。(ホースを自分で出してきて、好きな時に好きなだけ使っていていい、服が汚れてもいい、先生に止められないなど)
- ・ 環境の準備や、道具の提供が子どもの興味関心のタイミングに合っていた。
- ・ 先生と一緒にあそべるのが楽しいし嬉しい。
- ・ 最初は先生やお友だちがきっかけで、「たのしそう」「いっしょにやってみる？」という雰囲気づくり。
- ・ 様々な場所でやるから変化があって楽しい。選択肢がある、やることを自分で決められる。

●2つの事例に共通すること

- ・ 熱中できること。
- ・ お友だちといっしょがわくわくする。
- ・ 道具や環境にわくわくする。
- ・ やりたいことを自由にできる。
- ・ 自分でイメージを持てる。(自分のイメージするおぼけで楽しめる、好きな影を自分で考えて作れる)
- ・ 否定されず、止められないことであそびが広がり、夢中になることができる。
- ・ 子どもの感情や人的、物的環境など良かったことが複数重なり、「わくわく」が継続でき、あそびを上げることができた。
- ・ 教師が「ワクワク」を意識して保育を行っていたり、時間に余裕があったので、あそびを止めずにあそび込めたりできたのがよかったのでは。
- ・ 「明日もやろう」という期待感が持てることが大切である。

5. みたま幼稚園 事例研究 【影っておもしろいな～】

学園祭でブレーメンのオペレッタをすることに決めた年中組の花組さん。
「ブレーメンの影をつくるにはどうしたらいいかな？」と始まった試行錯誤。
いろいろな影あそびに発展していきました。

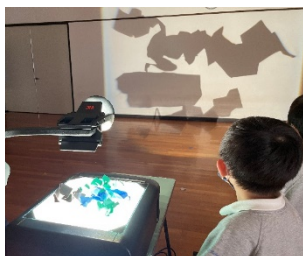
① OHPを使って影あそび



特別感のワクワク

分からないことを
探究していく
ワクワク

② 体以外で影を作ってみよう ～色画用紙を色々な形に切って写してみた～



映してみたらどうなるんだろう？
期待感のワクワク

③ 外にも影があることを発見！ ～自然の影であそんでみた～



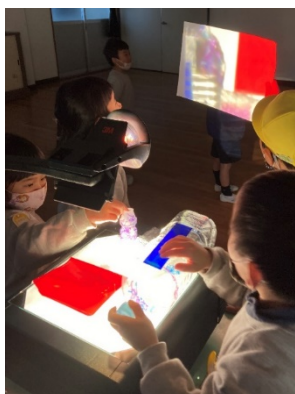
あそびが自分の日常とも繋がった面白さ
発見するワクワク

④ YouTubeで影絵劇の上映会



影の表現の面白さに心が動く

⑤ カラーセロファンが写ると、色が付く！！

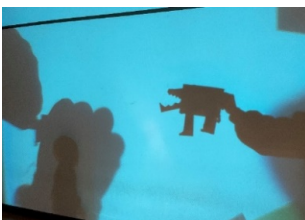


発見するワクワク

⑥ OHPにいろいろな素材を写したらどうなる？



「これでやってみたい！」
自分で考えたことを
やってみた
自発的なわくわく



●ワクワクを感じる時、子どもたちはどんな様子？

- ・笑顔・いきいきして楽しそう・自発的になる・目が大きくなる
- ・早口になっている・表情が豊かになる・知っていることを伝えたいくなる

●子どもたちはどんな時にワクワクしたか？

- ・「どうしたらいいかな〜？」と考えている時 ・「どうしてなんだろう？」と考えている時
- ・興味があること、わからないことを探求している時

●教師はどんな時にワクワクしたか？

- ・どうしたら子どもたちが楽しんでくれるのかな？と考える時
- ・子どもたちが発見したことを共有、共感した時
- ・こんな発見をしてほしいなとしかけてみている時

●ワクワクする要因

- ・子どもたちが興味があることやわからないことを探求できる環境
- ・教師が目的を持ち、時に仕掛けてみる
- ・どうしたら面白いかな楽しいかと教師が考えること
- ・教師が面白いことや素敵だと思うこと、不思議と思うことの引き出しの充実
- ・子どもたちがやってみたいと思ったことを実践できるような環境の充実

●見えてきた課題

もっとワクワクするためには

- ・自由と制限のバランス

考えがはっきりしていればいいのか？見通しが持てていればいいのか？

→画用紙などの素材の使い方

- ・倫理と心の動きのバランス
- ・年少さんは教師の仕掛けがある程度必要にもなってくる
- ・モノだけでなく、友だち同士のワクワクも必要

6. 2021年度研修記録

【研修会】

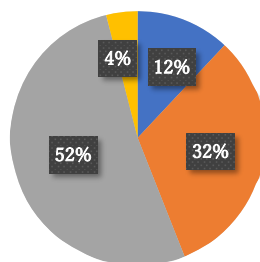
4/19 「私立幼稚園幼児教育講演会」
5/12 「発達の気になる子の理解と支援」
6/2 中部地区研究会「愛着形成と心の育ち」「同僚性を育む」
「子供と共に作り出す活動と環境」
6/8 山梨県幼稚園保育所等教育研究協議会
6/17 山梨県幼児教育センター「発達心理学から考える保幼小接続の必要性」
6/22 新採用研修会「自然を生かした保育」「自然と触れ合おう」
7/7 中部地区研究会、山梨大学教育学部付属幼稚園参観
7/16 自然体験活動推進協議会「リスクマネジメント講習会」
7/21 新規採用教員研修会「園における感染症やアレルギーの対応」
7/24 芸術と遊び創造協会
「身体感覚から考える」「気になる子どもの理解と保育」
「育ちと学びの見える化で保育のやりがい度アップ」
「お花紙とペットボトルで簡単アート」
「子どもへのより良い関わりやさしい発達心理学」
「身体表現から考える気になる子ども理解と保育」
「心も身体もまるごと育てるかんたん表現あそび」
「集団の中での子供の育ちと支援の実際」
「子どもの生活と遊びが楽しくなる絵本の世界」
「実践から考える子どもに寄り添う生活と遊び」
「五感で楽しむ自然あそび」
「未満児の心を育むうた遊び、ふれあい遊び」
「ままごと遊びの大切さとその先にあるもの」
7/25 日本ポジティブ教育協会「ポジティブ教育講座」
7/26 新規採用教員研修会「保育の場でのより良い人間関係を考える」
7/27 ルクミーセミナー「保育をどうしよう未来会議」
7/29 山梨県「食べる機能の発達とその支援」
7/30 学研「多様な子どもたちとその家族を支える保育」
8/2 新規採用教員研修会
「保幼小連携」「保育者のリズムトレーニング及び身体表現の指導」
8/3 フレーベル館「夢中になる！不思議いっぱい科学あそび」
8/4 フレーベル館「子どもの体力・運動能力が育つ運動あそび」
8/4 中部地区研究会
8/8 日本ポジティブ教育協会「ポジティブ教育講座」
8/10 山梨県幼児教育センター「ミドルリーダーの役割と期待」
8/18 新規採用教員研修会「保育の中で絵本を読む」
8/20 愛宕山こどもの国「幼児向け自然体験活動指導者研修会」
8/24 山梨県幼稚園保育所等教育研究協議会
11/17 中部地区研究会
11/30 新規採用教員研修会「幼児の安全な生活」
12/7 山梨県幼稚園保育所等教育研究協議会
12/20 全日本私立幼稚園幼児教育研究機構 園長・リーダー研修会
「機構の現状/園長・リーダーの学びとは」
「日本の幼児教育の現在と未来」
「誕生から育ちを支える保育者の専門性」
「危機管理意識の醸成」「自己肯定感を育む子育て」
1/12 中部地区研究会

【園内研修】

4/8 「科学あそびと自然あそびの計画」
4/9 「マインドフルネス研修会」
4/22 「避難練習について」
4/26 「保育参観について」
5/7 「サマーキャンプについて」
5/20 会議「避難練習・お楽しみ保育について」
5/24 「自己肯定感について」
6/1 会議「運動会の競技について」
6/11 会議「サマーキャンプについて」
6/18 ベネッセコーポレーション「ドキュメンテーション」
6/28 「PEECについて」
7/1 「お楽しみ保育について」
7/13 「サマーキャンプについて」
8/15 「PEECについて」
8/18 「チームビルディング」
8/18 「自己肯定感」
8/18 「マインドセット」
8/18 ベネッセコーポレーション「マナー」
8/19 ベネッセコーポレーション「救命と応急手当、AED」
8/19 「わくわくする保育の実践」
8/19 「自分で考え行動する力」
8/20 「SIあそび研修」
8/20 PEEC「健康な体」
8/27 「避難練習について」
8/31 「運動会のテーマについて」
9/28 「学園祭について」
10/5 「運動会当日について」
10/12 PEEC「ありがとう」
10/25 「避難練習について」
10/27 「学園祭プログラム順について」
11/4 中曽根陽子「子どもの探究心の育て方」
11/8 「虐待防止等の研修」
11/8 植松透「子どもが音楽を好きになる」
11/11 「学園祭フィナーレについて」
11/25 「学園祭について」
12/6 「学園祭当日について」
12/13 「学園祭の振り返り」
12/14 PEEC「いろんな気持ち」
12/20 「わくわくするサンタ祭りの計画」
1/13 「不審者対策、避難訓練について」
「節分の行事のあり方を考える」「PEECについて」
1/14 「来年度の運動会開催時期について」
1/17 「未来の手紙について」
1/19 ベネッセコーポレーション
「発達支援 基礎編」「発達支援 ケーススタディ」
3/27 「知能発達診断 個別プロフィールの見方」
3/28 プリモトイズ「幼児のプログラミング」

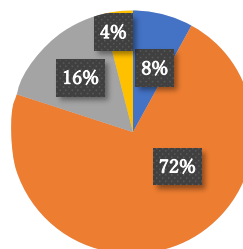
7. 2021年度の保育の振り返り

①2021年4月から今日まで、ワクワクを
どのくらい意識してきましたか？



12% 積極的に
32% いつも
52% できるだけ
4% たまに思い出す

②昨年度と比べて、幼稚園でのワクワク
は増えましたか？



8% とても増えた
72% 増えた
16% 昨年と同じ
4% 少し減った

●いづみ幼稚園

	特に達成できたこと	さらに工夫すること
満3歳	・子どもが何を求めているのか、常に配慮して接している。 ・食事や排泄などの生活に必要な活動に自ら取り組むよう配慮している。 ・送迎時などで日常的な情報のやり取りを大切にしている。	・一人一人のタイミングが違い、それぞれに関わっていると、待たせてしまうことがあるが、できるだけすぐに対応する。 ・身近な動植物に触れ合う機会を検討していく。
年少	・子どもが自由に歌ったり踊ったりすることを楽しめるようにしている。 ・一人一人が安心して過ごせる環境づくりを心がけている。 ・一人一人の興味に合わせて好きな遊びができるようにしている。午後の時間の充実にも注力し、子どもたちが自由に遊びを選んで楽しめる環境づくりを心がけた。	・子どものペースはそれぞれで、全体の活動の時に他の子に待ってもらう場面がでてきてしまうが、待った感のない関わりを工夫したい。 ・子どもの家族を大切にしようとする気持ちを育む。 ・研修の報告会で情報共有したい。
年中	・空き箱や段ボール、画用紙、折り紙などいつでも使えるように設置して、子どもが自分で工夫して遊べるようにしている。 ・クラスの人数が少ないため、子ども一人一人の気持ちを大切にしながら深く関わっていくことができた。 ・教員間で互いの状況や役割を理解し、協力や援助をしている。	・地域の人や高齢者と親しむ機会。 ・保護者との意見交換の機会や保育参加など。 コロナ禍で難しかったが、方法を工夫してできることをしたい。
年長	・園庭で鬼ごっこや復活ゲームなど、子どもたちが遊べる環境を整え、教師も積極的に参加した。体育あそびとの連続性も持たせた。 ・子ども一人一人の心情に寄り添った対応を心がけたため、教師との信頼関係を育むことができ、どんな感情の時に教師と話す姿が見られた。 ・緊急時に対する対応について、意識を高く持った。	・外国人教師との関わりなどをもっと活かしていきたい。 ・子どもが見つけた草花や生き物などを、自由に掲示したり飼育したりできる環境を整えたい。 ・園内の事項を自分事として受け止め、更に仕事や保育に反映させたい。

●みたま幼稚園

	特に達成できたこと	さらに工夫すること
年少	・はじめての集団生活の場である幼稚園が、安心できる場になるよう、一人ひとりに優しく声をかけ、のびのびと過ごせるように心がけた。 ・楽しい食事の時間となるような雰囲気づくりをし、苦手なものも少しずつ食べられるように援助していく中で食事への興味を引き出してきた。 ・順番を守るルールについて、横入りをされた相手の気持ちを考えたり、歌を作ったりあそび感覚で理解できるようにした。	・季節に応じて保育室の環境を整えること。花や自然物を部屋に飾って親しむようにしたい。 ・伝統的な行事に関わる絵本を置く。 ・世界への関心
年中	・子どもが自由に歌ったり、踊ったりすることを楽しめるようにしている。教師も同じ気持ちになって楽しんだことで自由に表現できる雰囲気づくりができた。 ・さまざまな素材や用具と接し、自分で工夫して遊べるようにしている。 ・ありがとうやごめんなさいなどの言葉を相手の気持ちを大切に指導している。	・外国の人や文化の違う人に親しみをもつ機会。 ・日頃からの防災意識 ・日常生活や環境の中での標識や文字に関心を持つ工夫
年長	・クラスの前でみんなの前に立って発表する経験を重ねたことにより、一人ひとりの発言力が伸びたと思う。自由に発言できるという雰囲気をクラス全体で作れることができた。 ・植物や生物に触れたりするなど、子どもの興味関心に教師が積極的に関わり、遊びや探究心を深めることができた。 ・保護者の小さな不安や疑問を少しでも解消していけるように、必要に応じて話がわかる時間をもうけたことで、信頼関係を築くことに努めることができた。	・食事を楽しめる雰囲気づくり ・地域の人と親しむ機会 ・個々の家庭の養育方針の共有

8. プレイフル

プレイフルとは？遊びとは？について参考となる記述。

●プレイフル

プレイフルとは、本気で物事に取り組んでいるときのワクワクドキドキする心の状態のことをいう。どんな状況であっても、自分とその場にいるヒトやモノやコトを最大限に活かして、新しい価値（意味を）を創り出そうとする姿勢。
（「プレイフルシンキング」上田信行 2020 宣伝会議）

●プレイフル・ラーニング

- ・子どもが興味をもっていないのに、大人が設定した場に子どもを押し込んでもプレイフルではない。
- ・はたから見れば遊んでいるようには見えなくても、子ども本人が楽しんでいれば、その学びはプレイフル・ラーニングと言える。
- ・主体的に働きかけて疑問に思ったことや、知りたいと思って調べたり聞いたりして発見したことは確実に残る。
- ・子ども自身が楽しいと思えるか、楽しみながら取り組めるか、という点が何よりも重要。
（慶應義塾大学 今井むつみ教授）

●遊び

子どもにとって「遊び」は本能の営みであり、幸せな子ども時代の基本となるものです。遊ぶ中でさまざまなことを試しながら、自分や他人のことを知ります。出会う身の回りの自然や生きもの、人を通して自らの生きている世界を学びます。そうして、子どもは自らの力で身体や知性、社会性、創造性を成長させていき、情緒を安定させていく力をもっています。その大切な営みの時間が、大人の良かれと思った願いや教育的な意図、また社会の複合的な影響によって、浸食されています。

「遊び」とは

- ・「おもしろそう」から始まる子どもの本能的な行動
- ・いつでも、どこでも、始まる
- ・子どもが自分で何をどのようにしたいか決められる
- ・子ども時代の根源的な喜びのひとつ

（TOKYO PLAY）

●幼稚園をもっとワクワクする場所にするために、どんなことができますか？（本園教師アンケートより）

- ・教師自身が笑顔で過ごせ、ワクワクできるような職場づくり
- ・子どもたちの「やってみたい！」を叶えられるような工夫をこらした環境づくり
- ・家庭ではなかなかできない、幼稚園でしかできないようなダイナミックな活動を展開していく
- ・ユーモアのインプット
- ・教師の柔軟な思考、引き出しの幅を広げる
- ・教師の仕事の負担を軽減し、保育中の時間的余裕を持たせる

「ワクワク」の研究を通して見えてきたポイント（9.まとめ）

→ワクワクする保育のチェックポイント

→ワクワクのルール

9. まとめ

今回、普段の保育の中で感じることも多く近くに感じていたワクワクという感情を改めて深く考えてみると、ワクワク＝〇〇と一つの答えがあるものではなく、大人、子どもに関わらず、人それぞれ、どうしてわくわくを感じたのかという理由も異なると気づいた。異なるからこそ、ワクワクの気持ちは色々な方向に無限に広がり、保育の方法もたくさんあることがわかった。

また、教師同士ワクワクの気持ちに視点をおき、感じたことや考えたことを共有したことで自分のワクワクの引き出し以外の感覚を知ることができた。そして、ワクワクする理由には、様々な環境構成や教師のいろいろな方向からの関わり、そして子どもの心の動きが関わってくるのだということがわかり、ワクワクの視野がより広がったと感じている。

研究を通し、もっとこうすればという期待も出てきたので、失敗を恐れずに試していき、ワクワクを存分に味わっていけるような保育を目指していきたいと思う。

みたま幼稚園 研究主任 市ノ瀬麻里

「ワクワクって何だろう？」初めは答えがわからないテーマに戸惑いもあったが、保育やワクワクについて深く考えるきっかけになっていった。また「ワクワク」という視点から保育を考えることにより、以前よりも保育が楽しくなったように感じている。どうしたら子どもたちがワクワクするだろうか、何にワクワクしているのだろうか、と考えたり観察したりすることが増えた。教師間の振り返りや情報の共有も自然と増えたように感じている。来年度は、もっとドキュメンテーション記録を活用しながら、研究を深めていけたらと思う。私たち教師にとって挑戦の１年であったが、大きな一歩が踏み出せた。

いづみ幼稚園 研究主任 河西弘樹

本年度は、年間を通して全教職員が同じ目標に向かい、さらなる「ワクワク」を創造していくために共に取り組んできました。子どもの「ワクワク」に注目することで見えてきたのは、教師自身のあり方だったように思います。園児の健やかな成長のための安全で楽しい環境を提供するために、たゆまぬ努力をしている先生方に敬意を表します。

園長 岩田乃江留

●次年度の研究課題

- ・ワクワクする環境（ヒト・モノ・コト・空間）について引き続き観察や試行をする。
- ・ワクワクのはじまりとなりそうな「好奇心」に着目する。
- ・心が動く、子どもと創り出す環境構成を工夫する。

ワクワクする幼稚園

ワクワクのルール

- ・まずはなんでもやってみる
- ・じぶんのあたまでかんがえる
- ・まちがえることはこわくない
- ・まわりのひととくらべない
- ・視点の変化
(ないものよりあるもの/できないことよりできること)

ワクワクする保育のチェックポイント

- ・子どもが「まずはなんでもやってみる」と思えるか
- ・子どもが「じぶんのあたまでかんがえる」か
- ・子どもが「まちがえることはこわくない」と思えるか
- ・「まわりのひととくらべない」状況か
- ・視点の変化ができているか
- ・教師自身がわくわくしているか!?



あそびの風景

4歳児「ブレーメンの音楽隊」のお話から、影絵あそびが始まりました。どうしたらドロボウをおどろかす「こわい影」が作れるかな？自分たちの体では怖くない。紙だったらどう？「ギザギザの紙、こわい感じ！」「ブレーメンの楽器も作ろうよ！」子どもたちのあそびが広がって、オリジナルストーリーの「ブレーメンの音楽隊」の劇ができました。鏡を持って光の反射をおもしろがったり、窓に貼ったセロファンから「色の光」になることに気づいたり、OHPに水槽を置いて水の揺らぎを眺めたり。壁に映したビー玉の影の動きはゲームみたい！光が洋服に映ると模様みたいだね！「あ、いいこと思いついた！」子どもたちのワクワクが続きます。



Everybody Smiles Everyday!

学校法人岩田学園

いづみ幼稚園

〒400-0043 甲府市国母1-24-6

TEL 055-228-4011

みたま幼稚園

〒400-0822 甲府市里吉1-3-7

TEL 055-235-0084

smile@iwatagakuen.ac.jp

<https://www.iwatagakuen.ac.jp>



内容の無断転載・転用禁止

©2022 IWATA GAKUEN